

東アジア・フォーラム（E A F）

第12回年次総会

報告書

2014年12月

東アジア共同体評議会

まえがき

この報告書は、2014年11月25日（火）～27日（木）の3日間にわたりブルネイ・バンドルスリブガワンで開催された「東アジア・フォーラム（EAF）」の第12回年次総会の議論を取りまとめたものである。

EAFは、2002年のAPT首脳会議で設置が決定されたAPT各国の官産学代表による年1回の意見交換会である。EAFは、第1回が2003年にソウルで開催されて以来、2004年にクアラルンプール、2005年に北京、2006年にカンボジア・シエムリアップ、2007年に東京、2008年にラオス・ルアンプラバン、2009年に韓国・ソウル、2010年にベトナム・ダラット、2011年に中国・成都、2012年にミャンマー・ネピドー、2013年に京都の11の年次総会を経て、今回はその第12回となった。当評議会は、EAFの日本代表（ナショナル・フォーカル・ポイント）である日本国際フォーラムを補佐し、今次年次総会に日本代表団を派遣した。

この報告書は、EAF バンドルスリブガワン総会の内容を、当評議会議員を中心とする関係者に報告することを目的として、作成されたものである。ご参考になれば幸いである。

2014年12月
東アジア共同体評議会
会長 伊藤 憲一

目 次

第Ⅰ部：概括報告（東アジア共同体評議会事務局）

1. 概要.....	1
2. 議論の要旨.....	1
(1) 開会式.....	1
(2) 本会議セッション1	2
(3) 分科会.....	6
(4) 本会議セッション2	7
3. 第12回 EAF 総会プログラム	8
4. 第12回 EAF 総会出席者リスト	8

第Ⅱ部：所感報告（日本代表団）

1. 石垣泰司 東アジア共同体評議会議長代行.....	17
2. 山本大介 双日総合研究所副所長.....	18

第 I 部 :

概括報告（東アジア共同体評議会事務局）

概括報告

さる 11 月 25 日（火）～27 日（木）の 3 日間にわたりブルネイ・バンドルスリブガワンの Empire Hotel and Country Club を会場として「東アジア・フォーラム（EAF）」の第 12 回年次総会が開催されたところ、その概要は下記の通りであった。

1. 概要

EAF とは、ASEAN+3（APT）首脳会議の要請により「東アジア・ヴィジョン・グループ（EAVG）」と「東アジア・スタディ・グループ（EASG）」が提出した報告書の中で提案された国際組織である。2002 年の APT 首脳会議で設置が決定され、2003 年に韓国・ソウルで第 1 回が開催されて以来、毎年開催されている APT 各国の官産学代表の年 1 回の意見交換会である。トラック 1.5（半官半民）の立場から、東アジア地域統合の動きに対して知的支援を提供している。

今回の会合は、11 月 25 日の歓迎夕食会で幕を開けた。翌 26 日は、「持続可能な成長：平和と繁栄と環境－責任ある東アジアに向けた共通の目的（Sustainable Growth: The Common Purpose towards a Peaceful, Prosperous and Environmentally-Responsible East Asia）」の全体テーマのもと、午前は「本会議セッション 1」が開催され、午後には 3 つの「分科会」が同時並行で開催された。翌 27 日には、「本会議セッション 2」で上記 3 つの分科会の議論の総括が行われ、幕を閉じた（プログラムについては 3. 第 12 回 EAF 総会プログラムを参照）。

ASEAN+3 の 13 カ国および ASEAN 事務局から総勢 54 名の官産学の代表者が出席し、日本からは、相星孝一 ASEAN 日本政府代表部特命全権大使、石垣泰司日本国際フォーラム参与・東アジア共同体評議会議長代行、山本大介双日総合研究所副所長、井上広勝外務省アジア大洋州局地域政策課事務官、菊池誉名日本国際フォーラム主任研究員・東アジア共同体評議会事務局長の 5 名が出席した（各国出席者については 4. 第 12 回 EAF 総会出席者リストを参照）。

EAF の運営にあたっては、各国政府ごとに指定された「国内調整窓口（National Focal Point）」が、国内の調整作業と対外的なコミュニケーションの円滑化にあっている。日本側は（公財）日本国際フォーラムが「国内調整窓口」となっており、当評議会はその活動を補佐している。

2. 議論の要旨

（1）開会式

冒頭、Yang Berhormat Pehin Dato Lim Jock Seng ブルネイ第 2 外務貿易大臣より「EAF は、官、産、学から構成される代表者の間で、これまで東アジアの地域協力における具体的な方策を議論することで成果をあげ、AEAN+3 プロセスとともに成長を遂げ

てきた。今後は、東アジア経済共同体（East Asia economic community）構築といった、より大胆なビジョンのために寄与すべきであろう。東アジアにおいては、まだまだ多くの課題が存在しているが、相互の信頼醸成を生み出す包括的な協力措置が進められている。本年ネピドーで開催された ASEAN+3 首脳会議では、テロリズムから感染症、気候変動といった非伝統的安全保障分野が強調されたが、この度の EAF では、それらの脅威のための方策が打ち出されることを期待する。また、ASEAN は、2015 年の共同体創設以後の歩みを始めねばならない。それには、教育や文化、青年交流をはじめとして、人と人との結びつきを強めていく必要があり、同時に、包摂的な経済成長や公平な社会発展によって人々の生活の質を高めるなど、幅の広い利益をもたらすための地域統合に向けて進んでいく必要がある。そして自然環境にも考慮すべきである。この度の EAF は「持続可能な成長」をテーマに行うものであるが、上記で述べたような問題に対処しつつ、この地域における持続可能な将来に向けた議論を行ってほしい。そして、このフォーラムが東アジア共同体への発展に寄与することを望んでいる」との開幕挨拶があった。

（2）本会議セッション 1

続いて、本会議セッション 1 では、ブルネイ、日本、ミャンマー、韓国、中国、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、ASEAN 事務局の順序で、各国代表者よりそれぞれ次のような挨拶が行われた。

（イ）Dato Erywan Pehin Yusof ブルネイ外務貿易省事務次官・APT SOM リーダー

この度の EAF は、「持続可能な成長：平和と繁栄と環境－責任ある東アジアに向けた共通の目的」というテーマで議論を行う。これまで ASEAN+3 では、政治、経済そして社会文化という 3 つの柱を中心とした協力について議論を行ってきた。これらは、連動して切り離せないものであるが、実際多くの課題がこの 3 つの柱に関連している。そして、「持続可能な成長」というテーマは、これら 3 つの柱のすべてに関わっているのである。なぜなら、持続可能な成長を成し遂げるには、何よりもまず平和と安定が必要なことは言うまでもないが、社会や政治、経済、環境の安定も同じように必要であるからである。その点、この地域においては、これまでテロリズム、不正、海賊、パンデミック、民族や宗教対立、など持続可能な成長を阻む多くの課題が存在している。そして、気候変動という新しいグローバルな現象は、温暖化による海面の上昇など様々な課題をもたらしている。これら環境の変化が、将来的には食料、水、エネルギー不足の要因となる恐れがある。我々は、こうした課題に対して、地域の弾力性を強化し、既存の様々な枠組みを活用しつつ、対処していく必要がある。

（ロ）石垣泰司 日本国際フォーラム参与/東アジア共同体評議会議長代行

EAF は、官、産、学の代表によって、地域の様々な課題に対して、包括的でバランスの取れた議論が行えるという、他の地域枠組みとは異なったユニークさをもっている。

今回のメインテーマである「持続可能な成長：平和と繁栄と環境」というタイトルは、まさに地域の課題のすべてを包摂する時宜に適ったものである。東アジア地域は、一方でASEAN諸国は、明年のASEAN共同体設立の目標に向かって邁進しているが、他方、プラス3側の日中韓の間では、日中韓三国協力事務局が設立されて政府間協力の基盤が築かれているに拘わらず、これまでハイレベルの3国間の協力を阻む政治的緊張が存在したり、南シナ海問題をめぐる緊張もみられた。しかし、近時これら状況にも多少とも改善の兆しが出てきていることは歓迎される。

昨年京都で開催された第11回EAFでは、人と人との連結性を主題として扱ったが、この一年間日本には極めて多くの外国観光客が、とくに中国、ASEAN諸国から訪れるという進展が見られ、3・11大震災直後の一時の大量減少から完全に立ち直ったといえる。現在、日本は、エネルギー安全保障、食料安全保障、高齢化、原子力発電などの困難な諸問題を抱えており、これらの重要な問題に如何に取り組んで行くかが大きな課題となっている。

(ハ) Aung Lynn ミャンマー外務省ASEAN局長

東アジアは、異なる歴史、文化、宗教、社会システムと発展段階をもつ、世界で最も多用性に富んだ地域である。しかし、東アジアには共通の利益が数多く存在し、中でも東アジア共同体の構築は、そのひとつである。ASEANはASEAN共同体の先に東アジア共同体があると信じている。ASEAN+3はそのための主要な手段であり、ASEANはその中心的な役割を果たすだろう。今日、ASEANは経済的な発展を遂げているが、その一方で不確かなグローバル経済のただ中にも位置している。その点、持続可能な成長について議論するこの度のEAFは重要である。持続可能な成長には、環境問題、特に気候変動への取り組みが重要である。我々は、災害に弾力性のある社会を築く必要があり、EAFはAHAセンターなどの既存の防災メカニズムとの協力も行うべきである。

(ニ) Duk-min Yun 韓国国立外交院院長

東アジアでは、投資が活発化され、域内域外を含めて急速な貿易の拡大もみられている。こうした成長は、貧困の減少に寄与しているが、急速な都市化が森林破壊、砂漠化に繋がり、気候変動の問題を引き起こしている。今や多くの国が、浄水の不足、大気汚染、洪水などの被害を受け、感染症の広がりも目立つようになった。そして、黄砂などの国をまたいだ影響をあたえる問題も生じている。それらが結局は経済成長を阻害する要因となっている。EAVG2レポートの提起により、今後環境問題への取り組みが更に強化されることになるであろうが、韓国としては、2000年以来実施している「ASEAN-韓国環境プロジェクト」や2012年に署名された「ASEAN-韓国森林協力」を今後さらに進展させていくことになるだろう。

(ホ) Li Tao 中国外務省アジア局参事官

東アジア地域は、いくつもの課題に直面している。グローバル経済の再調整により、各国の経済発展に歯止めをかけられ、また環境問題も顕著になっている。そのため、「持続可能な成長」との今次 EAF のテーマは、とても時宜に適っているといえよう。このテーマに関連して、次の 5 点について述べたい。第一は、平和で安定した地域を維持するためには、ゼロサム思考でなく相互の尊重が必要ということである。中国は、ASEAN とそのような関係を築くための合意について、議論する準備ができています。また、朝鮮半島の対立においては、非核の立場を保ち、対話を通じた平和的解決へのサポートを行うだろう。第二は、地域統合に向けた取り組みについてであり、中国は「シルクロード経済ベルト」などのイニシアチブを提起している。第三は、連結性協力の促進ということであり、連結性は地域協力の基礎となることから、中国はアジア・インフラ投資銀行の設立を行うところである。第四は、人々の幸福度を改善することであり、貧困の減少のために、ASEAN の途上国に来年 30 億元の支援を行う予定である。最後は、経済発展に関するイノベーションと環境の保護ということであり、中国は気候変動のための調査および国際協力の東アジア地域センターなどの設立を提起しているところである。

(ヘ) Chem Widhya カンボジア外務国際協力省政務次官

EAF は、ASEAN+3 の協力および東アジア共同体構築に寄与するものである。そして東アジア共同体は、この地域の平和と安定をもたらすものであり、EAF の役割は大変大きい。安全保障が確立されていなければ、政治的安定、社会的安定もなく、よって地域の平和を追求することは、必須のことである。そのため、カンボジアは、今後も ASEAN+3 の中で、平和と安定のためにつくすだろう。

(ト) Igusti Agung Wesaka Puja インドネシア外務省 ASEAN 協力局長

持続可能な発展は、21 世紀の主要な課題の一つである。そのためには、経済発展と社会福祉、環境への配慮が必要である。特に開発格差を如何にして改善していくのかが最大の課題であろう。インドネシアは、環境に配慮しながら、貧困を根絶するためのバランスのとれた発展を追求していく。そのために、我々は「開発推進」、「貧困への配慮」、「就職支援」、「環境配慮」、の 4 つのトラックによる戦略を実行していく。我々は国家内外の不平等など、貧困の構造的な原因を明確にして、包摂的な成長、人権、社会正義などに焦点をあてた政策による対処を強化していく必要がある。

(チ) Ekkaphab Phanthavong ラオス外務省 ASEAN 局長

持続可能な成長は、一つの国家の努力のみで達成できるものではなく、その点 ASEAN が 2015 年に経済共同体を設立させることは、この地域の成長にとって重要な機会となるであろう。ASEAN+3 は、こうした既存のメカニズムを活用しつつ協力を促進していく

ことができるはずである。特に、地域の平和的安定ということでは、ASEANに関連した枠組みである拡大 ASEAN 国防相会議 (ADMM+)、ARF、EAF などの枠組みである。また、東アジアは、地震、津波、洪水、台風などの自然災害が多発する地域であり、これらが経済成長に影響を及ぼしていることから、如何にして対処していくのか議論を続ける必要がある。経済成長においては、RCEP を促進させ、共通市場や地域の製造ネットワークの再構築、開発格差の縮小などに努めるべきである。

(リ) Othman Hashim マレーシア外務省事務局長

ASEAN+3 のメカニズムは、ASEAN 共同体設立におおいに寄与しており、国際社会においても重要なものである。今後さらなるアーキテクチャーの進展が必要であろう。特に東アジアにおいては、非伝統的安全保障分野の課題が多く、協力が必要である。また、経済、金融協力は、1997 年の金融危機により急速にその重要性が高まり、今日まで協力を強化してきた。他にも、自然災害に対する防災協力の必要性など、様々な協力が必要となっている。

(ヌ) Nestor Ocha フィリピン在ブルネイ大使

ASEAN は、2015 年の共同体設立に向けて進んでいる。しかし、経済的な繁栄を築くには、一時代だけの経済や金融の成長ではなく、次世代の繁栄を考慮にいれて、そのために如何にあるべきかを検討する必要がある。フィリピンは、季節を問わずメガ災害が起り、壊滅的な被害を被ってきた。そのため、弾力性のある社会を目指して、地域の防災協力を推奨し、様々な枠組みにも参加している。

(ル) Desmond Koh シンガポール在ブルネイ高等弁務官事務所副高等弁務官

今次 EAF のテーマである「持続可能な成長」ということについて、シンガポールでは、すでに 50 年以上前から、ビジネスと環境の保護を基礎にして国作りを行ってきた。シンガポールは、生活環境の質を維持するために、自然環境とのバランスをとりながら経済成長ができるように追求してきたのである。ただ、土地が限定されているために、如何に高い質の生活環境を提供できるかということは、現在も継続した課題である。また、気候変動によるグローバルな脅威にも、シンガポールは対応しようとしているところである。シンガポールは、持続可能な開発において、世界における学習モデルとなるつもりである。

(ヲ) Jakkrit Srivali タイ外務省大使

平和で安定した東アジアをつくるには、この地域にあるテロリズムやナショナリズムなどの様々な課題に取り組んで行かなければならない。すでに ADMM+、ASEAN+1、ASEAN+3、ARF、など様々な枠組の中で取り組んできてはいるが、今後は法の支配な

どの原則をより前面に出していく必要があるだろう。経済的には CLMV 諸国の発展が重要であり、それには、地域の枠を越えた協力も必要である。例えば、TPP の枠組みなども活用していくべきである。他にも、教育、医療などの分野にも取り組んで行くべきである。

(ワ) Hung Tam Pham ベトナム外務省南東アジア局参事官

EAF の成果を、実際に地域における平和や安定に関与させていくためには、より政治レベルのコミットメントが必要である。かつて、EASG が EAVG の提言をもとに、中期のおよび長期的な政策提言を取り纏め、それを実際の政治レベルで実現させていった。また、EAF は気候変動、海面上昇など、グローバリゼーション、社会格差など、共通の課題に対して、ASEAN+3 における協力を強化していくべきであろう。こうした状況に鑑み、EAF は、EAS、ARF など、この地域の異なる枠組み同士が相乗効果を発揮できるような手助けするべきである。

(カ) Nyan Lynn ASEAN 事務局事務次長

持続可能な成長を維持するためには、平和と安定が不可欠であり、統合された ASEAN が、伝統的および非伝統的安全保障の課題に対処し、またそれらを念頭に置いて、将来の地域アーキテクチャー形成を行うべきであろう。開発格差の縮小のためには、人的資源の開発、国家と地域の連結性強化、マクロ経済協力の促進、民間企業同士の協力などが必要である。他には、地域統合を強化し、経済成長を促進し、豊かな自然資源の管理を行う必要もあるだろう。いずれにしても、ASEAN は様々な課題に直面しており、日中韓のサポートを受けながら、2015 年の共同体創設以降の新たなビジョンに向けて、進んでいくだろう。

(3) 分科会

分科会は同時並行で 3 つのセッションに分かれて行われることになっており、参加者はそれぞれ事前に登録しておいた各セッションに分かれて議論を行った。セッション 1 は「平和な東アジア (Peaceful East Asia)」をテーマにして、Li Tao 中国外務省アジア局参事官が、セッション 2 は「繁栄する東アジア (Prosperous East Asia)」をテーマに、相星孝一 ASEAN 日本政府代表部特命全権大使が、セッション 3 は「環境に責任を持つ東アジア (Environmentally-Responsible East Asia)」をテーマにして、Lee Jaehyon 韓国 ASEAN 政策研究所 ASEAN オセアニア研究センター所長が、それぞれ議長を務めて行われた。(議論の詳細については (4) 本会議セッション 2 を参照)

(4) 本会議セッション2

(イ) 分科会における議論の総括

各分科会の議長より、それぞれ以下のような分科会における議論の総括がなされた。

① セッション1「平和な東アジア (Peaceful East Asia)」

分科会においては、東アジアでは、地域の平和が希求され、そのための地域統合や協力が進展しているが未だ課題がある、ということが確認された。現在、東アジアにはASEAN+1、APT、EAS、ARF、ADMM+、などの枠組みを通じて対話が行われているが、さらなる対話の進展によって、地域の安定を進める必要がある。ASEANには3つの柱があるが、4つの目の柱があるとすれば、社会正義などを含めたグッドガバナンスであり、それらを整備した国同士の相互信頼を醸成して行くことが必要である。また、青少年交流などによる信頼醸成も重要である旨が指摘された。

② セッション2「繁栄する東アジア (Prosperous East Asia)」

分科会においては、繁栄する東アジアに向けて、優先的に取り組むべき課題として不平等、開発格差、などが上げられ、特に包摂的な成長を遂げつつ、所得格差や少子高齢化問題などに取り組む必要性などが指摘された。また、分野別の課題としては、チェンマイイニシアチブ、AMRO、アジア債権市場、地域サーベイランスシステムなどの金融協力の分野、気候変動などの環境分野、教育分野、貿易・投資分野、インフラ連結性分野などにおいて、それぞれ更なる協力を進展させるべきことが指摘された。

③ セッション3「環境に責任を持つ東アジア (Environmentally-Responsible East Asia)」

分科会においては、環境問題に対して、技術移転を活性化して、様々な取り組みや施設などを共有することの他、同問題への理解を広めるためにも、青少年世代への教育、交流などが必要である旨議論された。そして結論としては、環境保護は他の問題と異なりノンゼロサムの思考で取り組むべきこと、かつ2国間関係が悪くても機能的な協力をもって対応することが必要であること、テクノロジーを用いて環境保護と経済成長の両方を追求することで持続可能な発展に向けて前進すべきであること、などがまとめられた。

(ロ) 来年度のホスト国 (議長国) について

EAFは、これまで+3側とASEAN側で、交互にホスト国となって開催されてきた。そのため来年度のホスト国は、+3側になる予定であり、韓国より来年度のEAFをホストしたい旨表明したところ、各国より全会一致で賛同が得られた。これによって、2015年のEAF総会については、韓国において開催されることとなった。

3. 第12回EAF総会プログラム

Tuesday, 25 November 2014

Morning/Afternoon Arrival of Delegates
07.00pm – 09.00pm Dinner

Wednesday, 26 November 2014

08.00am – 08.30am Registration
08.45am – 09.00am Reception with Minister of Foreign Affairs and Trade II
09.00am – 09.30am Opening Session
09.30am – 09.45am Coffee Break
09.45am – 12.00pm Plenary Session I
12.00pm – 02.00pm Lunch
02.00pm – 03.00pm Concurrent Group Discussions
03.00pm – 03.15pm Coffee Break
03.15pm – 04.30pm Concurrent Group Discussions
07.00pm – 09.00pm Welcome Dinner

Thursday, 27 November 2014

09.00am – 12.00pm Sightseeing Tour
12.00pm – 02.00pm Lunch
02.00pm – 04.30pm Plenary Session II + Closing Session

4. 第12回EAF総会出席者リスト

BRUNEI DARUSSALAM

1. Yang Berhormat Pehin Dato Lim Jock Seng
Minister of Foreign Affairs and Trade II
Brunei Darussalam
2. Dato Erywan Pehin Yusof
Permanent Secretary
Ministry of Foreign Affairs and Trade
Brunei Darussalam

3. Hajah Normah Saira Hayati Pehin Jawatan Dalam Seri Maharaja Dato Seri Setia
(Dr) Hj Awg Mohd Jamil
Permanent Secretary
Ministry of Industry and Primary Resources
Brunei Darussalam
4. Hjh Johariah Hj Abd Wahab
Director-General
Ministry of Foreign Affairs and Trade
Brunei Darussalam
5. Hjh Farida Hairani Dr Hj Hisham
First Secretary, ASEAN Department
Ministry of Foreign Affairs and Trade
Brunei Darussalam
6. Hj Khairur Rizal Hj Abd Majid
Assistant Director, ASEAN Department
Ministry of Foreign Affairs and Trade
Brunei Darussalam
7. Shahrul Anaz Hj Ismail
Second Secretary, ASEAN Department
Ministry of Foreign Affairs and Trade
Brunei Darussalam
8. Hjh Izzati Hj Baharuddin
Research Officer, ASEAN Department
Ministry of Foreign Affairs and Trade
Brunei Darussalam

9. Tiah Hui Ling
Research Officer, ASEAN Department
Ministry of Foreign Affairs and Trade
Brunei Darussalam

10. Lim Kim Suan
Second Secretary, ASEAN Department
Ministry of Foreign Affairs and Trade
Brunei Darussalam

11. Muhammad Ali Syah Hj Hanapi
Second Secretary, ASEAN Department
Ministry of Foreign Affairs and Trade
Brunei Darussalam

12. Pg Hj Mohiddin bin Pg Badarudin
Senior Administrative Officer
Ministry of Home Affairs
Brunei Darussalam

13. Abd Khalid Hj Lokman

14. Norhashimah Hj Awang Md Daud

CAMBODIA

15. Dr. Chem Widhya
Under Secretary of State
Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation
MFA-IC,

16. H.E. Norng Sakal
Director-General
ASEAN General Department
17. Mr. Thol Nara
Chief of Sub-Regional Cooperation, Asia and Pacific Department
18. Mr. Bann Sokvibol
Deputy Bureau Chief
ASEAN General Department
MFA-IC,

CHINA

19. Prof. Wei Ling
Director, Institute of Asian Studies
China Foreign Affairs University
20. Dr. Li Fujian
Research Fellow
Institute of Asian Studies
China Foreign Affairs University
21. Mr. Li Tao
Counsellor
Ministry of Foreign Affairs
22. Mr. Li Chunjing
Deputy Director
Ministry of Foreign Affairs
23. Ms. Xia Lijing
Second Secretary

Ministry of Foreign Affairs

24. Ms. Guo Jie
Staff, CCPIT

INDONESIA

25. Mr. I.G.A Wesaka Puja
SOM Leader
ASEAN-Indonesia/Director General of ASEAN Cooperation
Ministry of Foreign Affairs

26. Ms. Ananda Astralia Losei
Secretary to Director General of ASEAN Cooperation
Ministry of Foreign Affairs

27. Ms. Indah Budiani
IBCSD

28. Ms. Noviyanti Nurmala
Delegate
Ministry of Foreign Affairs

JAPAN

29. H.E. Koichi Aiboshi
Ambassador of Extraordinary and Plenipotentiary
Mission of Japan to the Association of Southeast Asian Nations

30. H.E. Ishigaki Yasuji
Councilor/Acting President
The Japan Forum on International Relations / The Council on East Asian
Community

31. Mr. Yamamoto Daisuke
Senior Economist and Executive Vice President
Sojitz Research Institute, LTD
32. Mr. Inoue Hirokatsu
Official
Ministry of Foreign Affairs
33. Mr. Kikuchi Yona
Senior Research Fellow/
Executive Secretary
The Japan Forum on International Relations / The Council on East Asian
Community

REPUBLIC OF KOREA

34. Dr. Duk-min Yun
Chancellor
Korea National Diplomatic Academy, Ministry of Foreign Affairs
35. Mr. Cheol Park
Secretary to the Chancellor
Korea National Diplomatic Academy
Ministry of Foreign Affairs
36. Dr. Lee Jaehyon
Research Fellow
Asan Institute for Policy Studies

LAO PDR

37. Mr. Ekkaphab Phanthavong
Deputy Director-General

ASEAN Department, MFA

38. Mr. Kongsada Detvongsone
Deputy Director for ASEAN External Relations

39. Mr. Vidavone Keobounkhong
Deputy Director
Institute of Foreign Affairs, MFA

MALAYSIA

40. Dato Othman Hashim
Secretary-General
Ministry of Foreign Affairs

41. Dato Steven Wong
Deputy Chief Executive
ISIS Malaysia

42. Ms. Clara May Lynn Soon
Director-ASEAN Economic Division, Ministry of Foreign Affairs

MYANMAR

43. H.E. Aung Lyn,
SOM Leader, Director-General
ASEAN Department
Ministry of Foreign Affairs

44. MS. AYE LEI KAN ZAW
Head of Branch (2)
Ministry of Foreign Affairs

45. MR. SAI KAUNG HTET
Second Secretary
Ministry of Foreign Affairs

PHILIPPINES

46. H.E. Ambassador Nestor Ochoa
Ambassador of the Republic of the Philippines to Brunei Darussalam
47. Mr. Melvin C. Almonguera
Vice Consul/Third Secretary
Embassy of the Republic of the Philippines,
48. Mr. Fredrerik Rili
Attache
Embassy of the Republic of the Philippines in Brunei Darussalam

SINGAPORE

49. Mr. Desmond Koh
Deputy High Commissioner
Singapore High Commission
50. Mr. Lye Liang Fook
Research Fellow and Assistant Director
East Asian Institute
National University of Singapore (NUS)

THAILAND

51. H.E. Jakkrit Srivali
Ambassador attached to the Ministry
Ministry of Foreign Affairs

52. Mr. Wichien Cherdchutrakuntong
Deputy Secretary-General
The Federation of the Industries

53. Ms. Patreya Wattanasin
First Secretary
Ministry of Foreign Affairs

VIET NAM

51. Mr. Hung Tam Pham
Deputy Director-General
Department of Southeast Asia, South Asia, South Pacific,
Ministry of Foreign Affairs of Viet Nam

52. Mr. Nguyen Vu Kien
Deputy Director General
International Relations Department
Vietnam Chamber of Commerce and Industry

ASEAN SECRETARIAT

53. H.E. Nyan Lynn
Deputy Secretary-General
ASEAN Political-Security Community
ASEAN Secretariat

54. Ms. Sarah Budiyan
Technical Officer of External Relations Division2
ASEAN Secretariat

第Ⅱ部：

所感報告（日本代表団）

所感報告

1. 石垣泰司 東アジア共同体評議会議長代行

ブルネイで開催された第12回 EAF 総会に私が日本代表団の一員として参加した所感次の通り。

(1) 私が日本以外の加盟国で開催された EAF 総会に参加したのは、2005 年の北京、2012 年のミャンマーについて今回が3度目で、そのうちミャンマーおよびブルネイが開催地国となったのは、いずれも初回の時であるが、それぞれ特色ある運営がなされており、今回のブルネイ総会も開催時期、規模、テーマ等にそれが良くあらわれていた。

(2) EAF は、建前上官産学の三者構成とはいえ、實際上各国代表団の多くは、官側関係者である。今回も、とくに ASEAN 側は、各国本国の所謂 SOM Leaders と呼ばれる ASEAN 担当部局幹部のトップを中心とするメンバーで、顔見知りの間柄と見受けられ、会議の運営および雰囲気も ASEAN Way であった。また、EAF は、韓国の提唱に始まった経緯から、従来より、韓国は、通例首席代表として外交部次官クラスを派遣し、会議を主導しようとする傾向があるが、今回は、ブルネイでの EAF 会議の直後の12月に釜山で韓国・ASEAN 特別首脳会議の開催を控えていたこともあってか、その代表団は、外交部所属の外交学院学長と ASEAN 政策担当研究者等3名の小規模のもので、珍しく存在感が薄かった。中国は、外交部 ASEAN 部局参事官と NEAT をも担当している外交学院大学教授等6名で活発に発言していたが、東アジア情勢の政治面等についての特に注目される言及は聞かれなかった。

(3) 今次 EAF 会議は、昨年の京都市で開催された前回会議に続くものであったので、我が国が開催国ブルネイと共同議長となる建前であったが、ブルネイでの会議は、比較的にじんまりした、形式面でもかなり簡素化された会議となり、ブルネイより共同議長国としての日本をたてた言及は何度かなされることはあったものの、實際上、ほとんど開催国ブルネイが中心となって会議面は運営された。

一方、我が国に対しては、ブルネイ側よりとくに配慮が示され、開会式後の最初の本会議セッションにおいては、ブルネイの次の第2スピーカーとして日本の代表演説を行えたのをはじめ、第1分科会セッション（政治）での討論者としてのスピーチ、第2分科会セッション（経済）の座長（モデレーター）と最終日の本会議セッションでの同分科会討議についての代表報告者、第3セッション（環境）でのキーノート・スピーカーの役割をそれぞれ果たした。

(4) 会議における議論の内容については、別途記載の通りであるが、私が出席した第3分科会における東アジアにおける環境問題においては、私が最初のキーノート・スピーカーとして、日本における公害・環境問題の歴史を振り返りつつ、アジア地域に関連した環境問題の分野において日本が国際的に積極的にリードしてきた多数のイニシアティブについて説明し、現下の原発廃炉・再稼働問題等の困難な問題についても言及を行った。

また、ブルネイの森林環境担当省次官が如何に同国が森林の保全および問題の解決に取り組んできたかについて熱弁をふるい、その結果今日同国の上空に広がる青空は、世界のどの地域にも見られない素晴らしいものであるとして、中国国民をはじめ、世界の他の地域の大勢の人々に来て見てもらいたい等論じた。私の上記発言に対しては、多数の代表から言及が有り、例えば中国の NEAT で馴染みの代表からは、かつて中国中央テレビが日本に取材チームを送って作成した日本の家庭ゴミ仕分けを含む環境問題への取り組みについての番組が中国国内で衝撃的反響を与えたことがあると述べたほか、同代表は、さらに最終日の本会議セッションでの質問の中でも、環境問題については、今後の EAF、NEAT 会議で掘り下げて、積極的に取り上げて行くべきであるとの発言を行っていた。

(5) 今回の EAF 会議での論議に関連して特筆されることは、これまで NEAT と EAF は、専ら別個のフォーラムとしてあたかも無関係のものとして扱われてきたのが実態であったが、ブルネイでの EAF 最終日の本会議の席上、開催国のブルネイ首席代表が先般の NEAT 総会での討議結果について同国 NEAT 代表より紹介させ、これに対し NAET 次期総会が開催される予定のインドネシアの代表が然るべくフォローアップして行きたいと言及するなど、各国出席代表間で、今後における両フォーラムの相互の関係性を十分念頭に入れて行くべきであるとの考えが概ね共有されたことである。

2. 山本大介 双日総合研究所副所長

今回、「産」の代表として初めて東アジア・フォーラムに参加した。商社のシンクタンクとしてアセアンと東アジアの現状と今後の発展は非常に関心があるところであり、また、中国の台頭が政治、経済面でこの地域に及ぼす影響も見逃せないものがある。アセアン並びに中韓の代表と意見を交わす機会を頂いたことは、非常に貴重な体験となった。

今回は一日目の午後にグループ討議（分科会）があり、私は「平和な東アジア」のセッションに参加した。私からは交易を通じた平和構築と人的交流の重要性を述べたが、国によっては名指しこそしなかったものの、「南シナ海」「領土紛争」といった言葉を使って、思うところをはっきりと述べていたのは印象的であった。また、「災害救助であれ、他国に軍隊を派遣することは、20年前のアセアンでは考えられなかった」という意見も有り、時間を経てアセアン各国の相互理解が深まっている様子が覗かれた。

分科会の議長国は中国だったが、フリーディスカッション終了後の纏めで「南シナ海は輸送ルートとして重要で、中国としても共に問題を解決して平和な海になることを願っている」と発言し、予定時間を超過した。分科会の内容は翌日のプレナリーセッションで報告されたが、議長国として中国は各国の意見を併記する形でとても公平に取り上げたのも、強く印象に残っている。

他の分科会のテーマは「繁栄する東アジア」「環境に責任を持つ東アジア」だったが、多様な域内協力枠組みの必要性や、持続的成長のためにも環境問題に取り組む必要性など、建設的な議論の結果が報告された。最後に、分科会の3つのテーマは互いにリンクしており、アセアン＋日中韓の信頼醸成が重要であることが再度強調された。

他方、会議の合間には海を見下ろすホールで、コーヒーを片手に各国代表と歓談したほか、ブフェスタイルのウエルカムディナーでも（ブルネイゆえアルコールは出なかったが）各国の商工会議所やシンクタンクなどからの出席者とも多様な意見交換ができた。今回出席できたことは、アセアン各国と日中韓の相互の関係を理解するうえで個人的にも貴重な機会となったが、このようにトラック 1.5 という立ち位置から意見を交わす機会があることは、相互の理解を深め、協力可能な体制を整える面からも非常に意義深いものと感じた。今回は開催に向けた準備期間が短かったこともあってか企業からの出席者は少なかったが、多様性を持つアセアンから多様な出席者が参加されれば、更に分厚い意見交換ができて意義が深くなると感じた次第である。

—了—

禁無断転載

CC-J-IV-0028



東アジア共同体評議会

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [Fax] 03-3505-4406
[URL] <http://www.ceac.jp> [Email] ceac@ceac.jp